

今月の1冊から 2016年4月～6月 4月(瀬田貞二生誕100年より)『日本のむかしばなし』

瀬田 貞二//文 瀬川 康男//絵 梶山 俊夫//絵 のら書店
むかしばなしといたら何を思い出しますか？



この本には「花さかじい」や「ねずみのすもう」、「三まいのおふだ」などのむかしばなしが13編(ペン)書かれています。

おじいちゃんおばあちゃん、それよりもっとおじいちゃんおばあちゃんの時代から愛(あい)されている日本のむかしばなし。

あらためて読んでみると、知らないおはなしもあるかもしれませんね。

だれかに読んでもらったならうれしいですね。だれかに読んであげても楽しいと思います。



5月(こどもの読書週間展示より)『九月姫とウグイス』

モーム//文 光吉 夏弥//やく 武井 武雄//え 岩波書店



シャム(今のタイ国)の王さまとお妃さまに、九人のお姫さまと十人の王子さまがおうまれになりました。王さまは名前をつけるのにたいそうくろうされましたが、お姫さまたちには、月の名まえをつけることにして、九番目にお生まれになったお姫さまには“九月姫”という名前をおつけになりました。

この本は、この九月姫とおへやのなかにとびこんできた小鳥のおはなしです。

王さまはある年のご自分の誕生日に、すべてのお姫さまに金いろのかごにはいったみどりいろのオウムをおあげになりました。お姫さまたちはオウムにことばをおしえ、「王さまばんざい」「かわいいオウム」といえるものもあり、みなさんごじぶんのオウムがとてごじまんでした。ところがある日、九月姫のオウムが死んでしまいました。とてもかなしまれましたが、おへやのなかにとびこんできた小鳥が、九月姫の手のひらから朝ごはんを食べたり美しい声で歌ったりして、九月姫のかなしみをなぐさめてくれました。

九月姫はこの小鳥が大すきになりました。そこで大すきな小鳥が、タカにおそわれたりわなにひっかかたりしないように金のかごにいれてしまわれましたが、小鳥は「かごからだしてください。木や、いけや、田んぼがみたいです。」といます。そこで九月姫は、とりかごをもってさんぽにでかけ、小鳥にそとのけしきをお見せになりました。九月姫は小鳥をなんとかしあわせにしてあげたいと考えたのです。この小鳥はどうなったのでしょうか？じぶんのしあわせよりも、じぶんのすきなひとのしあわせをかんがえることはとてもむずかしいことです。

6月 テーマの展示より)『カエルのおでかけ』

高島 那生 フレーベル館



「あしたはいいてんきになりそうだ。」カエルはそう思ったのに、つぎのあさはものすごいあめ。

わたしたちにとって“はれ”がいいてんきですが、カエルにとっては“あめ”がいいてんき。あめのひのおでかけをたのしむカエルでしたが、もうすぐあめがやんでしましそう……。だけどだいじょうぶ!!カエルのつくったあるものにクスリとわらえます。

あめのひがちょっとだけたのしくなる1さつです。